

発表項目 (行事名)	2019年度北方領土中学生作文コンテストの実施結果について			
概要	2019年度北方領土中学生作文コンテストの実施結果を発表します。			
	1 募集期間 令和元年(2019年)5月24日(金)から10月31日(木)まで			
	2 応募作品数 184作品(15校)			
	3 選考会概要			
	開催年月日		選考委員(作文審査の専門家、北方領土関係団体など5名)	
令和元年 12月19日(木)		北海道国語教育連盟事務局次長 大田 利幸 (札幌市立新琴似中学校校長)		
		(独)北方領土問題対策協会専務理事 山谷 英之		
		(公社)北方領土復帰期成同盟事務局参事 甲谷 俊二		
		(公社)千島歯舞諸島居住者連盟事業第二課長 安達 博昭		
		北海道総務部北方領土対策本部主幹 藤本 雄		
4 選考結果				
賞	学校	学年	氏名	作品名
最優秀賞	中標津町立計根別学園	9	近藤 夏林	返還を世界平和の象徴に
優秀賞	北海道教育大学附属札幌 中学校	2	二階堂 桜子	ニエツトからズドラース トピチェへ
	網走市立呼人中学校	2	寺崎 結	北方領土問題について
	北海道教育大学附属釧路 中学校	2	皆添 莉子	北方領土についての根本 的な問題
	根室市立歯舞小中学校	3	中村 そら	これからの北方領土
佳作	5名			
※ 他、奨励賞11名				
5 入賞作品の活用 入賞作品は、若い世代を中心に多くの方に読んでいただけるよう、道のホームページへの掲載や、文集を作成し全道の中学校に配付するなど幅広く紹介します。 なお、入賞作品は、当本部HPに掲載しています。 (URL: http://www.pref.hokkaido.lg.jp/sm/hrt/sakubun.htm)				
参 考 ※発表のポイントやね らい、経緯等	【添付資料】 ・2019年度北方領土中学生作文コンテスト入賞者一覧 ・最優秀作品本文			
他のクラブ との関係	資料配付 同時レク	オホーツク総合振興局記者クラブ、釧路総合振興局記者クラブ、 根室振興局記者クラブ		
担 当 (連絡先)	総務部北方領土対策本部北方領土対策課運動推進グループ(担当:藤本、早坂) TEL ダイヤルイン 011-204-5069 内線 22-768			

2019年度北方領土中学生作文コンテスト 入賞者一覧

賞	市町村名	学 校 名	学年	氏 名	題 名
最優秀賞	中標津町	中標津町立計根別学園	9	近藤 夏林	返還を世界平和の象徴に
優秀賞	札幌市	北海道教育大学附属札幌中学校	2	二階堂 桜子	ニエツトからズドラーズトビチエへ
優秀賞	網走市	網走市立呼人中学校	2	寺崎 結	北方領土問題について
優秀賞	釧路市	北海道教育大学附属釧路中学校	2	皆藤 莉子	北方領土についての根本的な問題
優秀賞	根室市	根室市立齒舞小中学校	3	中村 そら	これからの北方領土
佳作	七飯町	七飯町立七飯中学校	3	庄司 凧	日本とロシアに必要なもの
佳作	鹿部町	鹿部町立鹿部中学校	2	川村 球宇	繋がる未来
佳作	釧路市	北海道教育大学附属釧路中学校	2	岩城 妃奈	お互いに寄りそって
佳作	根室市	根室市立光洋中学校	1	近藤 妃香	北方領土返還に込める想い
佳作	根室市	根室市立齒舞小中学校	3	桑野 心晴	北方領土問題について思ったこと
奨励賞	札幌市	札幌市立藤野中学校	2	宮谷内 勤太	北方領土、自由訪問の今後
奨励賞	登別市	登別市立緑陽中学校	2	堺谷 海斗	強き心と強き意思で前へ！
奨励賞	登別市	登別市立緑陽中学校	2	中村 斗希	日本に欠かせない北方領土
奨励賞	登別市	登別市立緑陽中学校	2	深谷 いちご	平和的解決、人々の幸せ
奨励賞	釧路市	北海道教育大学附属釧路中学校	2	清水 優花	どちらが悪い。どちらも悪くない。
奨励賞	釧路市	北海道教育大学附属釧路中学校	2	成田 善昭	「共存」という選択肢
奨励賞	釧路市	北海道教育大学附属釧路中学校	2	高橋 聖奈子	互いに分かり合う
奨励賞	釧路市	北海道教育大学附属釧路中学校	2	山崎 光	これからの北方領土
奨励賞	根室市	根室市立齒舞小中学校	1	干場 リコ	北方領土を返してほしいという思い
奨励賞	根室市	根室市立齒舞小中学校	3	清水 空	北方領土問題について
奨励賞	根室市	根室市立齒舞小中学校	2	津嶋 朗里	北方領土

「返還を世界平和の象徴に」

中標津町立計根別学園

9年 近藤 夏林

「択捉島へ行ってみませんか？」

一枚のお便りが学校から配布されました。これが私の北方領土への考えを変えてくれたのです。もともと、北方領土には大きな国の問題として興味がありました。

「こんな近くに住んでいるのに、北方領土を知らないなんて恥ずかしい。」

と思い、実際に択捉島に行ってきました。行く前は、「ロシアは不法に日本の領土を占領した。」ということしか知らなかったため、ロシアに対して、怖いという印象を持っていました。ですが、実際に行ってみると、島に住んでいるロシア人は、笑顔で

「友人。」

と、迎えてくれました。私は、ロシア人に対しての印象が「ガラッ」と変わりました。択捉島へ訪問している時、私はふと思いました。

「以前、島に住んでいた日本人と、現在住んでいるロシア人が共有できる場にしてはどうだろうか。」と。そうすれば、日本人にとってもロシア人にとっても、納得できるかもしれないと思いました。家に帰り、早速その話を家族にしてみると、父が言いました。

「それは違うんじゃない？」

私は驚きました。

「ロシアは、日本が戦争で苦しんでいる時に、日本との中立条約を結んでいるのにも関わらず、攻めてきたんだよ。」

という父からの話を聞き、ハッと気づきました。

「やっぱり、返還を求めるべきだ。」

と思い、日本が返還を求めている理由も、よくわかりました。

では、どうすれば日本に北方領土が返還されるのでしょうか。そもそも私のように、北方領土について正しく理解していない人がたくさんいるのではないだろうかと思い、私なりに考えた結果、三つの案が浮かびました。

一つ目は、学校で必ず北方領土について正しく理解してもらうための授業をすることです。例えば、社会の歴史の授業や道徳の授業などで取り入れられると思います。これは、小学生や中学生などの学生に正しい歴史を知ってもらうために効果的だと考えました。

二つ目は、根室市にある二・ホ・ロを全国に設立することです。北方領土について、楽しく、気軽にふれ合える二・ホ・ロを全国に設立することで、興味を持ってもらえると思いました。

三つ目は、択捉島などの北方領土の印象的な写真をSNSで公開することです。実際に北方領土へ行った人が、ロシア人と交流している様子や、島にある建物などを公開することによって、現在の北方領土の様子を知ることができると思います。

このようにして、正しい歴史や今の現状を知っている仲間を増やしていきたいです。そして、それらの力を集めて、ロシアの大統領に北方領土を返してほしいという日本の思いを伝えたいです。私たちのような若者が直接訴えることによって、「返してほしい！」という思いが伝わるかもしれません。

「ここまでするのか。」と心打たれるかもしれません。また、元島民の方達の高齢化が進み、返還への思いを伝える人が少なくなってきました。ですので、私たち若者がその思いを引き継ぐべきだと思います。そして、もしこの問題が解決できたならば、世界平和の象徴になると思います。

「武力を用いなくても国の問題は解決できるのだ。」

ということの世界に発信できると思います。七十年かかってしまいましたが、話し合いで解決しようとする日本は素晴らしいと思います。そんな国に生まれたことを誇りに思い、これからも北方領土返還運動に関わっていこうと思います。